

医学研究センター

医学研究センター

松下 祥
(センター長)

医学研究センターは以下の6部門で構成され、それぞれが異なる視点から研究を支援している。

- 1) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 安全管理部門：RI、DNA、薬物、環境、動物、感染など、研究活動における安全管理に関わる。
- 4) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 5) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

全キャンパス両学部から選出された構成員からなる運営会議を月に1度開催し、活動している。部門内での会議も適宜開催されている。研究の実務に詳しい教員が主導しているのが医学研究センターである。一方、契約・経理・倫理などに詳しい職員が主導しているのが、リサーチアドミニストレーションセンター（後述）、という棲み分けで活動している。

研究用の共同利用施設は、中央研究施設（毛呂山キャンパス、日高キャンパス）、研究部（川越キャンパス）があり、多くの利用者の研究活動を支援している。共同利用施設運営部門は、各施設における研究分野ごとの部門、動物実験系、放射線（RI）系、形態系、機能系の部門長、施設長、研究者の委員により構成され、研究設備の整備、研究環境の改善、利用者の利便性、研究支援の向上、学内外のグラント申請等について検討し、それぞれの施設の整備、運営に反映させている。また、「共同利用実験室」と呼ばれる共用実験スペースを管理し、研究室を持たない研究者や研究室の構築段階にある研究者に対して便宜を図っている。

また、このような共同利用実験室はゲノム棟内にも設置された（中央研究施設 日高ブランチ）。この設置は、ゲノム医学研究センター棟の5階をリサーチパークに改装し、産学連携の場を創出するRAセンターによる活動と密に関係している。令和元年度早々には入居する企業の公募が始まった。企業が単独で入居して本学の研究の場を利用するのではなく、本学の研究者との共同研究を前提にして入居することになる。本学の知的財産活用状況は長年、国内単科系医科大学でトップの座を保っているが、29年度実績ではこれがさらに倍増し、国内ランキングを上げる予想である。リサーチパークにおける活動はこのような本学の特色を更に伸ばしていく原動力になってくれるものと期待している。

安全管理部門では本学における研究・教育・診療活動に必要な安全管理を行うことを業務とする。1) 麻薬や向精神薬、農薬の管理を行う薬物分野、2) 研究用の放射性同位元素をRI実験安全委員会と協力して管理するRI分野、3) 実験系廃液及び廃棄試薬の管理を環境安全委員会と協力して行う廃液等環境分野、4) BSL2以上の病原性微生物やそれらが産生する毒物等の管理を病原性微生物等管理委員会と協力して行う感染分野、5) 組換えDNA実験を組換えDNA実験安全委員会と協力して行うDNA分野、6) 実験動物の管理を動物実験安全委員会と協力して行う動物分野、の6つの分野により構成される。

研究主任部門では、学内グラント受賞者による研究発表会を主催し、研究倫理教育用教材の作成も行っている。ゲノム医学研究センターでは毎年シンポジウムを開催している。医学部3年生に対して「研究医養成プログラム」への参加を公募し、課外学習プログラムや慶応義塾大学の学生研究発表会などへの参加を通じて研究医養成活動を展開している。

研究評価部門では、学内の研究者の研究業績を登録・集計・公開することによって本学の医学研究の発展に資することを目的に、平成18年から研究業績データベースシステム（以下、本システム）を導入し運用している。導入以来、本学のすべての常勤研究者を対象に研究業績を登録し、国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、大学病院の特定機能病院認定、国際医療センターのJCI受審等のための研究業績の集計・出力に活用している。さらに平成26年度人事考課からは研究業績の確認にも用いられるようになり、平成27年度人事考課からは「研究ポイント」として研究活動の実績を数値化し、提出書類に「研究ポイント」を記載することとなった。平成30年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,310名の研究者が登録されている。

マスコミでも話題となったが、ハゲタカジャーナルの蔓延が気になる。投稿料・出版料のみを狙った“学術雑誌”を刊行する悪質な業者が存在する。著者自身や大学がマイナス評価を受けるのみならず、サイトの閉鎖により論文が閲覧不能にな

り得る。PubMed (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>)に収載されていないジャーナルや優良出版社リスト (<https://publicationethics.org/members/publishers>)に含まれない会社が運営するジャーナルは特に注意が必要である。

知財戦略研究推進部門はリサーチアドミニストレーション (RA) センターに移動した。

平成 30 年度も以下のような学内の各種グラントを運用した。

1) 学内グラント

丸木記念特別賞、関口記念特別賞、一般枠からなる。一般枠は前年度の文科省科研費に応募し、不採択となった者が申請資格を有する。

2) 研究マインド支援グラント

課外プログラム助成、共通部門助成、医学部若手限定助成の 3 種類がある。

令和元年度の申請締め切り日 (予定を含む) は以下の通りである。助成実績などは医学研究センター HP から参照可能である。

学内グラント： 令和元年 5 月 21 日

研究マインド支援グラント (課外プロ)：令和元年 5 月末日

研究マインド支援グラント (共通部門)：令和元年 5 月 10 日

研究マインド支援グラント (医学部基礎系若手)：令和元年 7 月予定

その他にも保健医療学部グラント、病院長裁量経費による若手支援グラントなどがある。

また、平成 26 年 12 月には「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が公表されて 27 年度から施行されることも重なり、新たな管理組織の必要性が大学・法人間および教員・職員間で共通に認識されるようになった。その結果 27 年度からスタートしたのが、リサーチアドミニストレーション (RA) センターである。また、これまで研究支援業務は様々なキャンパスに分散していたが、毛呂山キャンパス 2 ビルの整備が進み、令和元年度早々には多くの研究関連担当部署が一堂に会する体制となった (表 1；2019 年 6 月 1 日時点での構成員)。

以下を主な活動内容とする。

- 1) 諸規程の整備
- 2) 大学倫理審査委員会支援
- 3) 認定臨床研究審査委員会支援
- 4) 大学 COI 管理委員会支援
- 5) 研究不正の防止
- 6) 研究費の適正使用
- 7) 研究費の獲得
- 8) 研究に係る診療組織との連携
- 9) 研究に係る教育とモニタリング
- 10) 外国為替及び外国貿易法への対応
- 11) 知的財産の管理運用
- 12) その他研究の推進と管理に係ること

これらの活動は学内 HP (<http://smswww/ra/index.html>) でも紹介されている。

表 1. リサーチアドミニストレーションセンター 構成員 (2019 年 6 月 1 日現在)

センター長	副学長 松下 祥	副センター長	教授 千本松孝明
(顧問)	専務理事 棚橋紀夫	シニアU R A	教授 小林国彦
事務部門		委員会事務局	
事務統括	課長 佐藤勝茂	各委員会事務局の統括、研究活動並びに公的研究費等の適正化推進委員会、地域救急医療連絡会議、寄附研究部門設置委員会、研究部門eラーニング支援体制委員会	
研究支援担当		委員会事務局	
	主任 仲村由紀子	C O I 管理委員会事務局	
	神田春香	組換えDNA実験安全委員会事務局	
	中沢恭世		
	伊藤大祐	組換えDNA実験安全委員会事務局	
研究倫理担当（大学倫理審査委員会事務局）		委員会事務局	
	小鷹徳子	（兼務）臨床研究審査委員会	
	長田佐絵	（兼務）臨床研究審査委員会	
知的財産・産学官連携担当		委員会事務局	
	講師 菅原哲雄	特許等委員会事務局	
	石川友美	特許等委員会事務局	
産学官連携アドバイザー	豊田浩一	非常勤講師	
知財アドバイザー	林 利蔵	非常勤講師	
シニアU R A	川口 勉	非常勤講師	
契約アドバイザー	遠 保宏	非常勤講師	
特定臨床研究推進センター（臨床研究審査委員会事務局）			
室長	小林 国彦		
	福永由佳		
	中島奈月	（兼務）大学倫理審査委員会事務局	
（兼務者）	古木一成	大学病院臨床研究センター	
（兼務者）	浅見文子	総医セ臨床研究支援センター	
（兼務者）	石井正幸	国医セ臨床研究適正推進センター	
（兼務者）	小鷹徳子	大学倫理審査委員会事務局	
（兼務者）	長田佐絵	大学倫理審査委員会事務局	
リサーチパーク担当			
責任者	松下 祥		
（兼務者）	千本松孝明		
（兼務者）	講師 水野洋介	中央研究施設日高ランチ機能部門兼務	
（兼務者）	川口 勉		